

大津町議会 経済建設常任委員会行政調査

氏名 坂本 典光

視察研修名：大津町議会経済建設常任委員会行政調査

視 察 先：宮城県名取市、宮城県大和町

期 日：令和6年8月7日（水）～8日（木）

研修テーマ：名取市「なとり臨空タウン構想について」
大和町「半導体企業誘致におけるインフラ整備」

研修報告 意見・感想

宮城県の人口225万人の中で県庁所在地である仙台市は110万人の人口を擁する東北で最大の大都市である。全国に旧帝国大学が7つあったが仙台市の東北大学は、3番目に創立されている。国の出先機関が集中していて民間会社の東北支店も多くがここにある。

名取市・・・宮城県の南部に位置し太平洋に面している。東北自動車道、東北新幹線などが貫通している。交通の要衝である。面積は約100km²、人口は7,900人である。

仙台空港へのアクセス鉄道は、高架で空港まで繋がっている。駅の前には大きなスーパーマーケットがある。

復興の移転先都市名取市と空港を結ぶ都市計画鉄道ではないかと思う。国の復興資金がふんだんに活用されたのではないだろうか。

九州で当てはめるならば、久留米市から福岡空港までアクセス鉄道ができたという規模である。駅前のスーパーマーケットも久留米のゆめタウンのように大きい。なとりりんくうタウンとは東日本大震災の復興資金を活用した国レベルの都市計画であると感じた。

大和町・・・面積225km² 人口27,000人

昔から米作りの地域である。全国的に人口減少が叫ばれるなか、ここは人口が増加している。その要因は、工業団地の造成である。

「仙台北部中核工業団地」

大松沢丘陵上に、地域振興整備公団と宮城県土地開発公社の共同事業により造成された。近くには同様に仙台北部中核テクノポリス構想に基づいて大規模内陸工業団地として開発された第二仙台北部中核団地や、これらの団地の機能を補完する流通業務を目的として造成された大衡工業団地、また宮城県長期総合計画に基づいて県内物流機能を目的とした造成大和流通団地がある。

要するに大きく仙台市の恩恵を受けている。